平成２６年Ｙ８サミット創快横手市議会会議録目次

12月18日（木曜日）

○議事日程（第１号）……1
○会議に付した案件……1
○出　席　議　員……1
○欠　席　議　員……1
○説明のため出席した者……2
○開　　会……3
・会議録署名議員の指名について……3
・会期の決定について……3
・議案第１号の上程、説明、質疑、討論、採決……3
○閉　　会……21
○署　名　議　員……23

平成２６年Ｙ８サミット創快横手市議会会議録

議事日程（第１号）

平成２６年１２月１８日（木曜日）午後１時４０分開会

第　１　会議録署名議員の指名について

第　２　会期の決定について

第　３　議案第１号　横手市中学校創快宣言について

本日の会議に付した案件

議事日程第１号に同じ

出席議員（２５名）

１番	髙橋和樹	２番	佐藤德雄
３番	立身万千子	４番	斎藤　勇
５番	小野正伸	６番	遠藤忠裕
７番	土田百合子	８番	寿松木　孝
９番	播磨博一	１０番	青山　豊
１１番	加藤勝義	１２番	奥山豊和
１３番	本間利博	１４番	菅原正志
１５番	土田祐輝	１７番	佐藤忠久
１８番	塩田　勉	１９番	佐々木喜一
２０番	佐藤誠洋	２１番	髙橋聖悟
２２番	木村清貴	２３番	阿部正夫
２４番	齋藤光司	２５番	菅原惠悦
２６番	佐々木　誠		

欠席議員（１名）

１６番　佐藤清春

説明のため出席した者（２９名）

市長	髙橋　大	教育長	伊藤孝俊
教育総務部長	柴田恒宏	教育指導部長	高橋成浩
教育指導課長	土田　充		

横手北中学校	畑　瑛太郎	菊池颯太	長﨑芽衣
横手南中学校	中嶋一真	松井博輝	髙橋萌奈美
横手清陵学院中学校	小松田翔太	小松千大	田中日菜
増田中学校	佐々木　駿	関　翔平	堀田凌平
平鹿中学校	伊藤　蓮	佐々木日向	加賀谷幸美
十文字中学校	石川　快	菅原久吾	藤原和実
山内中学校	小山太芙斗	高橋　光	内藤えみり
横手明峰中学校	下村純也	小松田久遠	小西彩瑞

事務局職員出席者

事務局長	皆川規和	主幹	村上伸夫
副主幹	菅原ゆかり	議事調査係主査	松井尊臣
議事調査係主任	藤井健一		

午後１時４０分　開　会

◎開会及び開議の宣告

○木村清貴　議長　16 番佐藤清春議員から欠席する旨の届出があります。

ただいまから平成 26 年Ｙ８サミット創快横手市議会を開会いたします。

直ちに本日の会議を開きます。

◎会議録署名議員の指名について

○木村清貴　議長　日程第１、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、会議規則第 81 条の規定により、２番佐藤徳雄議員、17 番佐藤忠久議員を指名いたします。

◎会期の決定について

○木村清貴　議長　日程第２、会期の決定についてを議題といたします。

お諮りいたします。

今Ｙ８サミット創快横手市議会の会期は、本日１日といたしたいと思います。これにご異議ありませんか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

○木村清貴　議長　ご異議なしと認めます。従って、会期は本日１日と決定いたしました。

◎議案第１号の上程、説明、質疑、討論、採決

○木村清貴　議長　日程第３、議案第１号横手市中学校創快宣言についてを議題といたします。創快宣言について発表を求めます。

横手清陵学院中学校、小松田翔太さん。

同じく、小松千大さん。

同じく、田中日菜さん。

○横手清陵学院中学校　小松田翔太　議案、横手市中学校創快宣言の提案説明をします。

まず、宣言文の原案は、横手市の中学生全員の思いを代表しているということをご承知おきください。横手市の中学生全員にアンケートをとって、それをまとめたところ４つのキーワードが浮かび上がりました。それが「認め合い」「感謝」「あいさつ」「つながり」です。私たちは、この４つを柱として宣言文を作りました。また、４つの宣言文を具体的な到達したい姿として表したものが行動目標となっています。各宣言文につき、１つから３つの行動目標を配置しています。

それでは宣言文を紹介したいと思います。

○横手清陵学院中学校　小松千大　「認め合い」に関わる宣言文は、互いの良さを認め、思いやることを

心掛けるために、次のとおりとしました。互いの良さや個性を認め合い、思いやりの心を大切にします。

次に「感謝」に関わる宣言文は、感謝の気持ちを言葉で伝えることを心掛けるために、次のとおりとしました。日々の感謝の気持ちを自然に伝え合える人間関係を創ります。

○横手清陵学院中学校　田中日菜　次に「あいさつ」に関わる宣言文は、あいさつを通してより良い人間関係を築くために、次のとおりとしました。明るいあいさつを交わし、爽やかな毎日を送ります。

最後に「つながり」に関わる宣言文は、人と人とのつながりをより深めるために、次のとおりとしました。人と人とのつながりを意識し、交流の輪を広げます。

なお、細かな行動目標については、配布しました資料にあるとおりですのでご確認ください。

以上４つの宣言文のもと、横手市中学生全員が安心して過ごせる創快な学校生活を作り、また、そこからあいさつや感謝の気持ち、つながりなどを地域や家庭に広げていくことを目指して、この宣言文を提案します。

以上で宣言文の提案を終わります。

○木村清貴　議長　次に創快宣言作成の背景について説明を求めます。

横手北中学校、畑瑛太郎さん。

横手明峰中学校、下村純也さん。

十文字中学校、藤原和実さん。

同じく、菅原久吾さん。

○横手北中学校　畑瑛太郎　まず最初に「創快」という言葉から説明します。これは昨年の第１期Ｙ８メンバーが作った合い言葉です。全ての生徒が快適な学校生活を送れるように、そして、横手市内全ての学校でそれが実現できるようにと、そのような思いから誕生しました。

昨年はバッジやポスターをデザインし、各学校に配布することで、まずは「創快」という言葉が横手の中学生の間で定着することを目指しました。こうした取組みが功を奏したのか、現在どの学校でも生徒会活動が活発に行われ、とてもいい雰囲気で過ごすことができています。

○横手明峰中学校　下村純也　しかし、全国的に見れば、創快とはいえないトラブルやいじめなどの例がたくさんあります。秋田県ではまだ大きな事件は起きていませんが、奈良県では 2013 年にいじめを苦に自殺した事件が起きています。ＳＮＳ上のＬＩＮＥのグループ内でいじめにつながる書込みが行われていたようです。また、山形県でもＬＩＮＥへの写真投稿によるトラブルが新聞に取り上げられています。

資料１ページのグラフをご覧ください。文部科学省が発表した平成 25 年度児童生徒問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査によると、パソコンや携帯電話を使ったいじめの件数が前年度から約 1,000 件増加し 8,787 件と、この数字は過去最高だそうです。また、その下のグラフにあるとおり、小学校、中学校、高校別のネットいじめの割合を見ても、半数以上が中学校を占めています。これらのことから中学校でＳＮＳなどによるネットいじめが年々増加しているということが分かりました。

○十文字中学校　藤原和実　ＳＮＳは便利で役に立つ機能が多い反面、使い方によってはトラブルに発展します。例えば「既読スルー」という問題です。

「既読スルー」についてご説明します。「既読」とは、既に読んだことを意味し、ＬＩＮＥの中ではメッセージを確認すると「既読」という言葉が画面上に現れます。これで相手が自分のメッセージを読んだことが確認できます。同じように、相手からのメッセージを自分が確認すると「既読」と画面上に現れてしまいます。「スルー」とは、本来通り抜けるという意味の英語で、日本ではそこから派生して聞き流すという意味になり、さらに派生して現在は無視するという意味で使われるようになっています。

「既読スルー」とは、相手が内容を読んでいるにもかかわらず返信が来ない、既読なのに無視をするという意味で使われています。だから「既読スルー」をすると、相手からのメッセージを無視する意味になります。中学生の中には、相手の印象や友達関係が悪くなることを恐れ、「既読スルー」を気にするあまり、過剰なまでに返信しなければと思い込む人もいます。

○十文字中学校　菅原久吾　また、ＳＮＳに日常の不満を書き込んでしまい、トラブルになるケースもあります。さらには、携帯情報端末を持っている人と持っていない人の間で、共通の話題がなくなっていく問題も出てきています。これらの「既読スルー」や不満の書き込み、携帯情報端末を持っている人と持っていない人の温度差は私たちの日常でもよく見られる問題となっています。

○横手北中学校　畑瑛太郎　私たちは、そんなちょっとした小さな問題から見つめ直し、ある結論に達しました。それは、人間誰にでもあるちょっとした不安、共感してほしい気持ちがネットトラブルやいじめに発展することもあるということです。トラブルやいじめを未然に防ぎ、みんなが安心して学校生活を送れるようにするため、私たち中学生一人ひとりが何をすべきか、どうあるべきかを具体的に示したいと思っています。それが「創快宣言」です。宣言があることによって、同じ目標に向かってみんなで歩んでいくという気持ちが、みんなの心にしっかりと根付くだろうと期待しています。これが「創快宣言」を提案した理由です。終わります。

○木村清貴　議長　ただいまから宣言に対する質疑を行います。通告により、質問は順番をもって許可いたします。25番菅原惠悦議員に発言を許可いたします。

25番菅原惠悦議員。

○２５番（菅原惠悦議員）　皆さんこんにちは。会派市民の会の菅原惠悦です。

ただいま横手市内の中学校の生徒会、あるいは2,490名の生徒同士が、これまで協議に協議を積み重ねました創快宣言案の説明をいただきました。大きくは４つの柱から宣言文を作成しておられますけれども、その中から「認め合い」、お互いの良さや個性を認め合い、思いやりの心を大切にしますについて質問をいたします。

最初に「一切のいじめを行いません」とあります。これは難しい問題だと思います。いじめは子どもの世界だけではなく、大人の世界でもあることだからであります。もちろん、現在進行形であるとすれば、先送りをせずに早急に対処しなければなりません。また、いじめをしている、いじめを受けている、

これは周りの人も気付いていることも多いと思います。それに対して、いじめだと分かっていても見て見ぬふりをするという人もいると思います。なぜ見て見ぬふりをするのかといえば、ひょっとしたら自分に矛先が向かってくるのではないかという恐怖心からということもあるかと思います。そこで、どういう形でいじめを追放するのか、何か具体的な方法を考えているとしたらお伺いしたいというふうに思います。

また、いじめはこのような創快宣言のように、みんなで取り組んだこと、決めたことを守れない、守らない、そうしたことに対しまして、生徒や関係する皆さんの見る目、あるいは対応の仕方によっては新たないじめにつながる可能性もあります。そうしたことにならないように、創快宣言を生徒全員に理解していただく手立てが必要だろうというふうに思います。この創快宣言をしたことによりまして、生徒全員に理解をしていただくためにどのような取り組みをなされるのか、各校での創意工夫されていることがあれば併せてご答弁をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

○木村清貴　議長　横手南中学校、髙橋萌奈美さん。

○横手南中学校　髙橋萌奈美　いじめを追放するための具体的な取り組みについて、私たちの考えをご説明します。菅原議員さんがおっしゃったようにいじめを完全になくすことはとても難しいことだと思います。ですから、Ｙ８ではいじめを未然に防ぐことが一番大事だと感じています。そのために、まずはいじめについて深く考える機会を設け、人を傷つけないようにする方法を学んでいくことが大切なのではないでしょうか。横手南中学校では、そのためにいくつかの取組みをしているので紹介したいと思います。

まず１つ目は「いじめノックアウト宣言」です。これはＮＨＫ主催で行われている、いじめをなくしていくために自分は何ができるかを一人ひとりが宣言にしようという企画で私たちの学校はこれに参加しています。宣言を作るためには、「いじめは悪いことだ」だけではなく、なぜいじめが起こってしまうのかという根本的なところから考えていく必要があります。この企画によって、いじめの原因はもちろん、その解決策も日常の中にあることに多くの生徒が気付くことができました。

２つ目の取組みは「さわやかフォーラム」です。これは、横手南中学校区の小学校と中学校４校で「いじめノックアウト宣言」やいじめに対する考えを紹介しあいながら、爽やかな学校生活にしていくためにできることを話し合う会です。先日 12 月 11 日に横手南中学校を会場にして行われました。その中でも、いじめをなくすためにどうするべきかではなく、いじめが起こらないような雰囲気を作っていくために自分たちができることは何かを語っている生徒がほとんどでした。また、「誰かのためになれる自分に出会う。そんな自分が大好き」というキャッチコピーをもとに、各クラスで行われている道徳の授業の充実も図り、普段からいじめのない生活を意識しています。さらに、一人ひとりの考えや感想などを道徳コーナーとして廊下に掲示することで、たくさんの考えに触れ、自分の考えを深め、自分とは違った意見を受け入れる広い心を育てています。

横手南中学校では、このような取り組みをすることで、確実に温かい雰囲気が作られています。今後

のＹ８サミットでも、やはり軸となるのはいじめ防止に関する活動だと思いますので、これからも各学校でいろいろな企画に取り組みながら、創快な学校生活を作っていきたいと考えています。

以上で答弁を終わります。

○木村清貴　議長　横手南中学校、松井博輝さん。

○横手南中学校　松井博輝　創快宣言を全校生徒に理解してもらうための具体的な取組みについて、私たちの考えをお答えいたします。この宣言がもし採択されたら、市内の各中学校にパネルを配布して宣言を呼び掛ける予定です。

しかし、ただ宣言文を配布して「守ってください」というだけではいけないと思っています。実際に行っていく活動として、各中学校での生徒総会の一場面で創快宣言を紹介するというものを考えています。横手市の中学生に浸透させたい思いを全中学生に伝えていくことで、宣言に込められた思いを生徒全員が理解できると思います。また、その思いを横手市の中学生全員が持った上で、宣言に記された柱となる内容が各中学校で当たり前のように、自然な流れで行われていくような取組みをＹ８で企画し、共通実践事項として活動していきたいと思います。さらに、この宣言をポスターにして、市内の各小学校にも配布し、中学校での取組みを知ってもらうと同時に、いじめのない快適な学校生活を作るためにできることを少しでも考えてもらいたいと思っています。

これからも各校の生徒会役員が連携し、切磋琢磨しながら、それぞれの生徒会活動を活性化させていきたいと考えていますし、これまでも共通実践事項として様々な活動を行ってきました。ここで、平鹿中学校、増田中学校の例を紹介したいと思います。

○木村清貴　議長　平鹿中学校、伊藤蓮さん。

○平鹿中学校　伊藤蓮　これから私たち平鹿中学校の取組みについて紹介します。私たち平鹿中学校生徒会では、創快宣言の４つの項目のうち、「認め合い」「つながり」に関する活動を行ってきました。

１つ目の活動は、学校祭期間中に行った巨大オブジェの制作です。私たちはこのように学校祭期間中に大きな時計のオブジェを制作しました。これは今年度の平鹿中祭テーマ「Movement～煌進の時を刻め～」にちなんで作られました。時計の文字盤には、学校祭準備期間中の全校生徒の頑張りを捉えた写真を毎日貼り付けていきました。

これまでの学校祭を振り返ってみると、準備期間に入るにつれ、部門ごとの活動になるため、他の生徒がどのように頑張っているのかを容易に知ることができないという課題がありました。いつの間にか学校祭が終わっているのではなく、全校生徒の力があったから学校祭が成功したのだ、自分の力が全校生徒の役に立っているという自覚を持ってもらいたいと考えたからです。学校祭準備期間中、このオブジェを足を止めて見る生徒がたくさんいました。また、学校祭当日、最後の写真が貼られ、学校祭の成功を確認し合った瞬間は、今でも全校生徒の心に残っています。この巨大オブジェは今も校内に飾られています。学年の枠を越えて力を合わせ、互いの頑張りを認め合った私たちの証として、今もなお私たちに頑張ろうという力をくれる存在になっています。

これで終わります。

○木村清貴　議長　平鹿中学校、佐々木日向さん。

○平鹿中学校　佐々木日向　もう１つの活動は、「ほっとポスト」と名付けたポストを使っての活動です。「手紙～拝啓、優しい君へ～」と名付けたこの活動では、全校生徒に自分が体験した心温まるエピソードや感謝の気持ちを伝えた手紙を投函してもらい、それを毎週お昼の放送の時間を使って全校生徒に紹介するという活動です。

先日、創快宣言に関する全校の意識調査を行ったところ、「あなたはあいさつを大切にして学校生活を送っていますか」という項目では、比較的全校の意識が高かったものの、「あなたは異学年や同学年の人との交流を大切にして生活を送っていますか」という項目や「あなたは相手を思いやったり、感謝の気持ちを大切にして学校生活を送っていますか」という項目では、あいさつの項目に比べやや低い意識であることが分かりました。

そのため、平鹿中生は、もっと互いの良さを認め合い、思いやりの気持ちや感謝の気持ちを自然に伝えられるようにならなければならない。それが創快の理念である。みんなが快適に学校生活を送ることであると考え、このような活動を行うことにしました。中身としては、毎日委員会活動を頑張っている人への感謝の言葉、先輩から後輩にあてた感謝や激励の言葉、後輩から先輩にあてた感謝やこれから頑張ろうという決意、友達同士で仲間を思いやった内容が多いです。

これで終わります。

○木村清貴　議長　平鹿中学校、加賀谷幸美さん。

○平鹿中学校　加賀谷幸美　実際に投函された手紙を１通紹介します。

拝啓、生活委員会の皆さん。最近はとても寒いのに、毎朝校門前であいさつをしている姿から元気をもらっています。ありがとうございます。これからも頑張ってください。

この「手紙～拝啓、優しい君へ～」という活動を行うようになってから、以前よりも互いのことをよく見るようになった気がします。さらに、互いの良さや頑張りに気付くことができるようになっていることも実感しています。そして何より、こんなにたくさんの心温まるエピソードが私たちの身近にあったことに驚きを感じています。みんなが創快を合い言葉に、快適な学校生活をこれからも送っていけるよう、この活動を継続しておこなっていく決意です。

以上で、平鹿中学校生徒会の取組みの紹介を終わります。

○木村清貴　議長　増田中学校、佐々木駿さん。

○増田中学校　佐々木駿　増田中学校で行っている互いを褒め合い、認め合う活動について紹介します。

増田中学校では、互いを褒め合い、認め合う活動として「ほめまクリスマス会」を昨年の 12 月に開きました。この会では、事前に準備した相手の良いところを書いた「ほめまクリスマスカード」を全校生徒が互いにプレゼントしあいます。また、会が始まる前に、全校生徒に創快バッジの説明を行い、配布をしました。カードを送る相手は、学年からランダムで決まり、今まで関わることの少なかった人と

も互いを褒め合い、認め合うことができます。さらに、行事終了後には、担任の先生が用意してくださった紙に自分の頑張ったことを書く欄以外にも、クラスや色組などで頑張り、輝いていた人にありがとうメッセージを書く欄があり、そしてその紙を教室の壁に掲示するので、いつでも心温まるありがとうメッセージを読むことができます。

このように、増田中学校では、クラス、学年、そして全校生徒が互いを認め合い、褒め合う活動を行うことで満足感が高まり、創快で気持ちの良い学校生活が送れることになっています。

これで説明を終わります。

○木村清貴　議長　増田中学校、堀田凌平さん。

○増田中学校　堀田凌平　次に、全校縦割りでの活動について説明します。

増田中学校では、各クラスが２クラス、３クラスしかないというものもあり、全校縦割りの色組を作り、体育祭、球技大会で３年生が中心となって応援をリードしたり、他学年の競技をお互いに応援し合ったりして、学年を越えた仲を深める活動をしています。また、学校祭でのおもてなし企画ということで、横手南中学校さんの取組みを参考にして、体育祭、球技大会で別れた色組でそれぞれのリボンをつけ、来てくださったお客様に接客態度や仕事を評価してもらい、輝いていた増中生に投票してもらいました。

この他にも、総合的な学習の時間の授業で、「増田町の人口流出を食い止め、地域を活性化するには」というテーマのもと、全校生徒が違う学年の人とグループを組み、学年を越えて１つのテーマのもと活動することで、日常的に異学年とのつながりが生れています。

このようにＹ８では、先ほど紹介した平鹿中学校さんや私たち増田中学校のように、互いの良さを認め合ったり、つながりを意識したりするような活動を行うことで、みんなの満足感が高まり、心の不安やストレス、孤独感を取り除くことができると考えています。

これで説明を終わります。

○木村清貴　議長　25 番菅原恵悦議員。

○２５番（菅原恵悦議員）　各校での取り組み、丁寧なご説明ありがとうございます。

次に、もう１つだけご質問を申し上げたいと思います。「その言動で傷つく人がいないか考えてから行動します」についてでありますけども、これには「ＳＮＳではメッセージを送る前にもう一度自分で読み直します」と具体例が示されております。ＳＮＳを実際に利用している方々に聞いてみますと、例えば、保護者間同士、学校の部活などの日程なども大変あるわけなんですけども、こうしたものにいつ、誰が参加できるのかというのを、これまでは電話等で作業を何回も繰り返し行っていたものを、このＳＮＳでは送信するだけで本当に素早く保護者同士の連絡がスムーズに確認できるということで大変便利である。しかし、その反面、知り合い同士という気安さからだいぶトラブルも起きやすくなっている。その原因として考えられるのは、話し言葉と書き言葉の違い、こうしたことから来るということでありました。

お互い向き合って話をするのと文章にして送る、これの違いといいますか、それはもちろん違うわけでありますけれども、この中に「もう一度自分で読み直します」というふうにありますけども、そうしたものに付け加えて「その文章を見ず知らずの人に見せても大丈夫か」というような形で、こうしたものも付け加えたらどうでしょうかということでありますけども、やはりこういうものは書いてはいけない、あるいは、書いてはいけない言葉と文章にするのとの違いといいますか、そういう言葉は意外と多いというふうに思うんです。親しき仲にも礼儀ありという言葉もありますけれども、せっかくの便利な道具を楽しく使っていただきたいという思いから提言と受け止めまして、生徒同士のこれからの協議の場などで話し合っていただければ幸いだと思いますので、その点についてはいかがでしょうか。

○木村清貴　議長　横手南中学校、中嶋一真さん。

○横手南中学校　中嶋一真　ただいまのご提案について答弁いたします。

以前、Ｙ８サミットで私たちもＳＮＳ利用に関する話し合いをしたのですが、その中でもいま菅原議員さんがおっしゃったような意見が出てきました。

確かにＳＮＳ上でのやりとりは相手の声や表情が分からないため、言葉遣いのちょっとした間違いや意味の取り違いが原因でトラブルが起きてしまうことも多々あると思います。ですから、言葉の重みを理解して利用するという点では、「その文章、見ず知らずの人に見せても大丈夫」という行動指標は、宣言に盛り込み意識していくべき内容としてとても参考になるものでした。

しかし、創快宣言の大本となる文言の下に書かれた行動指標は、この宣言に掲げられている理想または目標の姿に向かって、市内の中学生全員がまず一歩進むことができるようにと考えたものです。つまり、これらの文は誰もが理解し、身近なところで行動に移していくことのできる最低限の具体的行動が示されている必要があります。また、宣言を打ち出し、市内の中学生が目にする最初の年ということもあるので、まずはより分かりやすく、行動に移しやすい、「ＳＮＳではメッセージを送る前にもう一度自分で読み直します」という具体例のみにしようと考えています。もちろん、この行動の裏には、言葉の重みを理解して安全に使ってほしい、親しき仲にも礼儀ありなどの思いが込められていますし、その込めた思いについても生徒全員に理解していただけるように、これから各中学校で伝えていこうと思っています。

ですが、この先創快宣言をもっとより良いものにしていくためにも、具体的行動指標については、変えたり付け加えたりしても良い、というよりどんどん手を加えていってほしいと思います。

菅原議員さんからの提案についても、この創快宣言にある姿にさらに近づいていくためにとても大切なことだと改めて感じました。今後の具体的行動の一つとして、前向きにご検討させていただきます。貴重なご意見ありがとうございました。

○木村清貴　議長　25 番菅原惠悦議員。

○２５番（菅原惠悦議員）　ご答弁どうもありがとうございました。ぜひ各校の連携あるいは情報を密にしまして、横手市内の中学校が安心して創快な中学校生活が送れるというようなことを、横手市内外に

も発信できるよう、これからも努力していただきたいというふうに思いますし、私ども横手市が合併して間もなく 10 年になります。この間、学校統合など教育環境の整備には大変力を注いでまいりました。その成果が今日は肌で感じられるという、そんな思いを今いたしております。

横手市内の８つの中学生の皆さんが１つになって、Ｙ８サミットとして取り組んだ創快宣言。こうした機会を通しまして、生徒や父兄のみならず、横手市内の市民の皆さん全体の絆が深まりまして、さらなる横手市の安全、安心な市民生活にもつながることを期待いたしまして、私の質問を終わらせていただきたいと思います。

ありがとうございました。

○木村清貴　議長　10 番青山豊議員に発言を許可いたします。

10 番青山豊議員。

○１０番（青山豊議員）　新風の会、青山豊でございます。通告に従いまして質問をいたします。項目は「感謝」についてであります。

まず、最初の質問です。

創快宣言を拝見しました。本当に立派な提案だというふうに感じております。「認め合い」「感謝」「あいさつ」「つながり」、この４つを確実に実行することができれば、いじめは一切起こらない理想の中学校生活を過ごすことができるというふうに思います。

私は、その中でも「感謝」という部分が一番大事なものであると、そういうふうに思っております。皆さんの心の中に、意識の中にありがとうという感謝の気持ちが常にある。そして、自然に起きる。それがなければ、認め合うことも、元気にあいさつすることも、そして、人とつながることもできません。いわば「感謝」は創快宣言の基本中の基本、基となるべきものだと思っています。

しかしながら、人の心という内面は、その人しか分からないものです。心を、そして意識を変えていくのは、非常に難しい問題であります。大人の社会に生きる私たちでさえも、まだできていないのかもしれません。そこを皆さんは、具体的にどうやって感謝の気持ちを各校生徒一人ひとりに醸成させていくのかお伺いします。

○木村清貴　議長　横手北中学校、菊池颯太さん。

○横手北中学校　菊池颯太　ただいまのご質問について、私たちの考えをお答えいたします。

先ほどの増田、平鹿の実践例にもあったように、まずはお互いを認め合う場を生徒会活動の一つとして徹底しようと思っています。自分から仲間の良さを見つけたり、仲間の頑張りを称えたりする気持ちを持つことで、互いに感謝し合える環境が生まれます。自分のことを認めてくれる人がいる、自分のことを必要と思ってくれる人がいると実感できるからです。それが周りへの感謝の気持ちへとつながるのではないでしょうか。

その代表的な例として、学校祭があります。どの学校でも大いに盛り上がり、大成功に終わった学校祭。みんなが充実感、達成感を味わうことができたようです。ＳＮＳ上では「お疲れ様」「ありがとう」

「よかったよ」などプラスの書き込み、特に感謝の言葉が多数見られました。誰かを不快にさせるような誹謗中傷などは見られませんでした。ＳＮＳについても、その他のことについても、私たちは何々を禁止というような規制をかけていくような取組みではなく、あくまでもみんなが自然に注意を促したり、呼び掛けられるような学校、そういったことができる中学生になりたいと思っています。

以上で答弁を終わります。

○木村清貴　議長　10 番青山議員。

○１０番（青山豊議員）　学校祭のことを例に出してご答弁いただきました。ありがとうございます。

では、次の質問に移ります。

この宣言は、基本的に校内での生活における実践内容だと思っています。しかしながら、校内だけでやっても、私は習慣にならないのかなというふうに思っています。この創快宣言の案の最後に「この取り組みを地域や家庭に広げながら」という、そういう文言にありますように、やはり校外での日常生活、家庭や地域、その中で今この横手で生活できているのは、たくさんのいろんな方々のおかげという心で感謝を伝えていくのも重要だというふうに思っています。

私の知り合いなんですけども、コンビニで買い物をして、レジで商品やお釣りをもらう時にも「ありがとう」という言葉をかけるそうです。店員さんに対して。普通は「どうも」とか、あるいはペコっと頭を下げるだけで終わりますよね。私もそうです。でも、きちんと「ありがとう」と言う人はそういないと思います。その人は「ありがとう」という言葉を出すことによって、自分の内面が磨かれる。そして、言われた店員さんも嬉しい気持ちになる。「ありがとう」という言葉は、そんな魔法の力があるというふうに言っていました。皆さんもそう感じたと思います。今は一つの例でしたが、そういった取組みをこれからどうやって日常生活の中で、校外でも実践していくのかお伺いします。

○木村清貴　議長　横手北中学校、長﨑芽衣さん。

○横手北中学校　長﨑芽衣　ただいまのご質問について私たちの考えをお答えします。

私自身、日頃の生活を振り返ってみると、家族に対して感謝の気持ちをなかなか表現できずにいるので、自分自身の反省も込めて述べたいと思います。私は感謝の気持ちは持つだけでなく、言葉や行動で伝えるべきだと思います。従って、今まで育ててくれた地域への恩返しとして、ボランティア活動や伝統行事に参加していくことも大切だと考えています。

具体例として、山内中学校と横手南中学校の取組みを紹介します。

○木村清貴　議長　山内中学校、小山太芙斗さん。

○山内中学校　小山太芙斗　私たち山内中学校が行ってきた活動の中で、「駅前あいさつ運動」について紹介します。

私たちは６月と９月に部活動ごとで、地域の人に喜んでもらえるように、私たちのあいさつを広めたいという思いで駅前であいさつ運動を行いました。

○木村清貴　議長　山内中学校、高橋光さん。

○山内中学校　高橋光　その活動の結果、地域の方から「あの時のあいさつは素晴らしかった」「中学生のあいさつが良かった」など、あいさつ運動についてのお褒めの言葉をいただきました。それを聞いて、私たちはこの活動をやっていて良かったという達成感、地域の一員としての責任感を感じることができたので、今後もこの活動を続けていきたいと考えています。

以上で私たちの活動の紹介を終わります。

○木村清貴　議長　横手南中学校、髙橋萌奈美さん。

○横手南中学校　髙橋萌奈美　横手南中学校では、毎年定期的に全校ボランティアという活動を行っています。この活動は、ただ単に環境を守るためのごみ拾いという意味合いだけではなく、各生徒が自分の住んでいる町内に分かれて活動を行うため、いつもお世話になっている地域の方々に感謝の気持ちを行動で表すことができる良い機会です。

今年の全校ボランティアの前には全校集会を開き、先ほど言った地域の方々への思いはもちろん、心構えや目的をパネルディスカッションなどの話し合いを通してしっかりと確かめ合いました。

また、全校ボランティアをすることで、感謝の気持ちを届けるだけではなく、見てくださっている地域の方々から「ありがとう」という言葉を直接いただくことができます。その言葉を受けることで、私たちは地域の中で支え合って生きていることにはっきりと気付くことができます。これからも地域への感謝の気持ちを忘れないよう、生徒会でも呼び掛けなどをしながら、この取り組みをずっと続けていきたいと思っています。

これで紹介を終わります。

○木村清貴　議長　横手北中学校、長﨑芽衣さん。

○横手北中学校　長﨑芽衣　市内のほぼ全ての学校がこのような取組みを生徒会活動の一環として積極的に行っています。そして、それに参加している中学生がたくさんいます。ちなみに、私たち横手北中学校では、かまくらや送り盆、金沢神社の祭典、横手川の鮭の稚魚放流などにたくさんの生徒が関わっています。

私たち中学生一人ひとりが地域に主体的に関わる意識をさらに強く持つことで、地域に対する感謝の気持ちをもっとふくらませたいと思います。

以上で答弁を終わります。

○木村清貴　議長　10 番青山議員。

○１０番（青山豊議員）　それぞれの取組み内容を紹介していただきまして、大変立派な答弁でした。

皆さんはこれから高校に進んで、そしてまた上の学校に行くとか、あるいは就職するとか、道は様々だと思います。

皆さんが数年後に飛び込む社会というものは、予想以上に、皆さんの予想以上に厳しい世界です。もちろん喜びもあります。楽しいこともあります。でも、それ以上に悔しさや悲しみや虚しさ、挫折も数限りなく経験します。その時に今皆さんが答弁した感謝の気持ち、「ありがとう」という言葉、それさ

え忘れていなければ、本当に充実した人生を送ることができます。それを私からのメッセージとして質問を終わります。ありがとうございました。

○木村清貴　議長　21番髙橋聖悟議員に発言を許可いたします。

21番髙橋聖悟議員。

○２１番（髙橋聖悟議員）　よろしくお願いします。お疲れ様です。会派新風の会、髙橋聖悟と申します。横手南中学校15期生でございます。よろしくお願いします。

私は４つの宣言のうち、「感謝」についてということで、質問を通告いたしました。早速ですが、その通告、題名に従い、質問を始めさせていただきます。よろしくお願いします。

人は１人で生きていけません。家族、友人、そして社会の中で互いに支え合いながら生きています。そういった支え合いをもっと知れば、私は自ずと感謝の気持ちというものが生れてくることと思います。その感謝の気持ち、まずは「ありがとう」の一言を面と向かって言わなくても、背中からでも何かしらでかけてあげることができれば、心の融和が図られ、温かな心が醸成されることと思います。

そういったことで、みんなが「感謝」「ありがとう」の一言を自然と口に出せるような仕掛けを生徒会活動や校内、部活動を通して考え、そして実践していくことが必要だと思いますけれども、皆さんはいかがお考えでしょうか。ご答弁よろしくお願いいたします。

○木村清貴　議長　横手清陵学院中学校、小松田翔太さん。

○横手清陵学院中学校　小松田翔太　ただいまの質問について答弁します。

先ほど髙橋議員がおっしゃったように、私たちも支え合うことを実感できれば、感謝の気持ちが自ずと生まれてくると思います。こちらの資料をご覧ください。

横手市全ての中学校で、「相手を思いやったり、感謝の気持ちを大切にしながら生活を送っていますか」というアンケートを取りました。その結果、約８割の中学生が「とても良くできる」「良くできる」と回答しました。しかし、残りの約２割の中学生は「ふつう」「あまりできない」「できない」と回答しました。このアンケートから、約２割程度の中学生は、感謝の気持ちを大切にして生活できていない、または実感できていないということも分かりました。このことからも、私たちが支え合いをどのように生徒に実感してもらうかを考えていく必要があると思われます。

１つの例として、私たち清陵学院中で「相思相愛モザイクアート」という取組みを行いました。こちらの資料をご覧ください。これは学校祭の準備期間を通して、学年・学級の枠を越えて、お互いに頑張りを認め合い、褒め合い、爽やかな気持ちで学校生活を送ることができるようにするために実施したものです。付箋紙に「学校祭の準備の取り掛かりが遅かった時、○○さんがみんなに呼び掛けをしてくれた」などの互いの頑張りを記入し、モザイクアートの台紙に貼っていきました。作品の完成の喜びとともに、自分に向けていろいろなメッセージが寄せられていて、さらに嬉しい気持ちになっていた人もいました。さらに「相思相愛モザイクアート」を感謝バージョンに置き換えると、「○○さんの呼び掛けのおかげで準備がスムーズに進んだ。ありがとう」となり、感謝の気持ちをより伝えやすくなると思い

ます。

感謝の気持ちは、互いに関わり合う中から生まれるものだと思います。また、言葉に出したり、形として表すことで、感謝を通じた温かい気持ちも伝わると思います。こういったように、生徒全員が支え合いを実感できるよう、生徒会企画または学校行事の一環として実践することを意図的に目指したいと思います。そして、行動目標にある「感謝の言葉、ありがとうを伝えます」を全員が達成できるように取り組んでいきたいと思います。

以上、答弁を終わります。

○木村清貴　議長　21番髙橋聖悟議員。

○２１番（髙橋聖悟議員）　ご答弁ありがとうございました。

感謝の気持ち「ありがとう」というのは、近くにいる人ですとか、慣れた人に対しては意外と忘れがちな言葉です。ちょっと言い方が悪いんですが、簡単に捨てられてしまいそうな言葉ですので、いじめに関わらず人付き合いの基本となるのが「ありがとう」だと私は思っておりますので、進んで「ありがとう」が言えるようになれば、温かい学校、温かい地域ができていくのではないかと思いますので、皆さん、こういった挨拶「ありがとう」はぜひ進んでやっていただきたいと思いますし、皆さんの行動に期待したいと思います。ご答弁ありがとうございました。

○木村清貴　議長　５番小野正伸議員に発言を許可いたします。

５番小野正伸議員。

○５番（小野正伸議員）　皆さんこんにちは。本日４番目の質問をさせていただきます横手市議会、会派新政会の小野正伸です。大変お疲れで、しかも、私を含めて皆さんも緊張されていることと思いますが、何卒よろしくお願いいたします。先ほどからの受け答えを拝見させていただき、今どきの中学生は随分立派だなと感心しているところでございます。

さて、私がいただいたテーマは「あいさつ」であります。私は、長年皆さんの後輩である小学生のスポーツ少年団との関わりを通じて、あいさつの大切さを肌で感じています。ほとんどのスポーツは、相手があってできることであり、礼に始まり、礼で終わる。なぜなら、試合をしていただいた相手に、敬意と感謝の心をまず一番に届けることがスポーツマンシップだからであります。スポーツ少年団を離れて町で会った時にも、気軽に声を掛けてくれます。こんな子どもたちが明るく素直に育ってくれることを心から望んでいます。

また、私は青少年育成横手市民会議のメンバーとして、毎年市内の各小中学校に出向き、登校時のあいさつ運動に参加しています。今年は７月下旬に横手北中学校で生徒会の役員の皆さんとともに実施いたしました。また、今月の 25 日、クリスマスの日にも、横手駅東口で朝のあいさつ運動を予定しております。皆様のお手元に配布させていただきましたポケットティッシュは、その際にいつも配っているものです。どうぞ時節柄有効にご活用願えればと思っております。

毎回「おはようございます。今日も元気に頑張りましょう」と声掛けをすると、ほとんどの皆さんは

元気にあいさつを返してくれますが、稀に大人の人とあいさつをするのが恥ずかしいのか、うつむいている人もいました。おうちでは、見知らぬ人からは元気以外はもらわないようにと言われているのでしょうか。ちょっぴり残念でした。あいさつは、昔の軍隊のように決して強制して行われるものではなく、全ての人が自分から進んで自然に気持ちよく言葉が出るような雰囲気が必要だと思います。

さて、皆さん。今朝家族の方ときちんとあいさつをしてきましたか。また、毎日朝ごはんはちゃんと食べていますか。お父さん、お母さんと週に何回くらいお話しをしていますか。そして、学校以外でもご近所の方々と普通にあいさつができていますか。どうでしょう。今一度これらのことを具体的に検証していただき、明るい地域社会を一緒に作っていければと思っていますが、いかがでしょうか。

今回のＹ８サミットでの創快宣言を契機に、学校生活の中でいじめという言葉が、今後一切使われなくなることを念願し、私の質問とさせていただきます。

ご清聴ありがとうございました。

○木村清貴　議長　十文字中学校、石川快さん。

○十文字中学校　石川快　ただいまの質問について答弁いたします。

まず、あいさつに関するご指摘ありがとうございました。もしかしたら、こちらからあいさつをしても、あいさつを返さない人もいるかもしれません。地域でのあいさつが不十分だという点は、全くそのとおりであると思います。我々中学生は、地域の方々に対してもっともっと積極的に関わっていくべきだと考えています。あいさつについても、元気なだけでなく、心のこもったあいさつをしていきたいと思っています。そのために各校がそれぞれ心のこもったあいさつをするための取組みをしています。資料６をご覧ください。

具体例を挙げますと、私がいる十文字中学校では、「あい宣言」という生徒会が作った独自の宣言があります。この３つの「あい」で学校を明るく、愛あふれるものにするため、日々取り組んでいます。その中の一つに、あいさつをさわやかに交わしますというものがあります。この宣言を実現するために、毎朝あいさつ運動というものを行っています。このあいさつ運動をすることで、全校生徒が心のこもったあいさつを意識してもらえると考えています。

このようなあいさつ運動については、十文字中学校だけでなく、横手市の全ての学校が同様の取組みを行っています。Ｙ８の話し合いでは、他にもあいさつリレーというものが紹介され、横手市８校での共通実践事項として取り組むことになりました。これからも各校の生徒会活動で改善できるところはないか検討し、横手市の中学生全員が心のこもったあいさつをできるようにしていきたいと考えています。貴重なご意見ありがとうございました。

○木村清貴　議長　５番小野正伸議員。

○５番（小野正伸議員）　ご答弁ありがとうございました。ただいまお話いただきましたことを皆さんの後輩にも十分浸透させていただきまして、今回の宣言が一過性のものとならないようにお願いしたいと思います。

皆さんは間もなく高校受験が待ち構えています。また、将来会社に勤めるとすれば、必ず面接試験もあります。100％絶対に合格する方法はないかもしれませんが、私の経験からすると、大きな声できちんとあいさつすることでかなりの確率で合格します。大人になってどんな仕事をするにしても、決して一人で全てできるわけではありません。何よりチームワークが必要ですし、俗に言われているコミュニケーション能力を高めていくことが大切だと思います。何気ないあいさつから第一歩を踏み出し、皆さんが将来立派な社会人になれるように大きなエールを送り、私の質問を終わらせていただきます。

ありがとうございました。

○木村清貴　議長　８番寿松木孝議員に発言を許可いたします。

８番寿松木孝議員。

○８番（寿松木孝議員）　大変ご苦労さまでございます。皆さんを見ていると、うちはもうちょっと大きくなってしまったんですが、私もいまだに子育てをしています。下の息子がいま高校３年生、上が大学を卒業するという子どもを持っています。つい最近まで学校行事にも参加させていただきながら、ＰＴＡという枠組みで様々関わってきたという思いがありまして、最初に感想を言ってしまいますが、本当に皆さんの受け答え、今までの流れを見ていまして、何と言いますか、たくましいと申しますか、この地域本当に安心できるんだな、横手の子どもたちの教育が非常にうまくいってるんだな、そんなふうに感じた次第であります。それでは、通告に従いまして、「つながり」という部分について質問をさせていただきたいというふうに思います。

まず、１つ目のつながりの縦割り活動の部分についてお伺いいたします。ちょっとバックボーンを申し上げますと、我々が育った世代、要するに私のような50代、そして40代、皆さんの両親のように40代ぐらいの方々が育った世代といいますのは、意外と学年が一個違うと非常に立場が違う、１歳違うと非常に大きなギャップがある、そういう世代で育ってきたのが私たちです。

自分の子どもたちを見ていて、その学校にいる雰囲気とか様々な話を聞く中では、現在はそういう状況でないという、学校教育の中で、そういう状況でないという学校環境の中で皆さんは生活されているんだなというふうに思ったんですが、この日本という社会は、基本的には全て縦割りで動いています。これは、いま現在の社会活動の中では、至極当然に縦割りで動いています。そのことの大切さも含めまして、この縦割りということが、学校の様々なカリキュラムの中に組み込まれているのかなというふうに思いますが、実はこの縦割りというのは、先ほど申し上げたとおり上下関係がはっきりしてしまう、そういう部分を顕著に表す側面も持っているというのが縦割りだというふうに思います。

そういう中で皆さんが下級生にこれからこのつながりだとか、様々な創快宣言をお伝えしていく時に、その縦割りの中で強制的になってしまうとこれは下級生の身に付かないものになってしまうのではないかな、そのような懸念を持ちましたので、この辺りをどのように考えているか。学年を超えた交流というのはどういうことなのか。その辺りについてお聞きしたいと思います。

○木村清貴　議長　横手明峰中学校、小松田久遠さん。

○横手明峰中学校　小松田久遠　ただいまの質問にお答えいたします。

まず縦割り活動で大切なのは、学年によってそれぞれの役割を果たしていくということだと思います。つまり、上級生はリーダーとして自覚や責任を持って活動していき、下級生は所属する組織の一員としてしっかり活動していくということです。これは、これまでも生徒会の委員会活動や部活動、そして新入生歓迎会、応援練習、３年生を送る会といった諸行事などでも取り組んできています。今回の縦割り活動は、このことを踏まえてさらに交流を深めていこうということです。

例えば、学校祭の各部門の仕事は縦割り活動で行っていますが、横手明峰中学校では、その中にほめほめ企画と題して部門ごとにメッセージカードを交換する企画を持ちました。企画後の生徒の感想からは、「後輩から感謝のメッセージをもらって素直にうれしかった」「先輩に頑張りを認めてもらってよかった」といった好意的な意見が多く聞かれました。このように認め合ったり、感謝したりする取組みを継続させていくことで、学校生活への満足感や充実感などが育まれ、いじめやＳＮＳトラブルなどを未然防止する上でも効果があるのではないかと考えています。

以上で答弁を終わります。

○木村清貴　議長　８番寿松木孝議員。

○８番（寿松木孝議員）　それでは２番目の質問に移りたいというふうに思います。

意識を高めるために創快バッジを着用とありますが、そのバッジの持つ意味がどのように各個人に伝わるのかなということだろうと思いまして、この質問をさせていただきます。

いまここに市長いますが、市長も教育長も横手市のバッジを着けています。私たちは、議員という仕事をする中では、市議会というバッジを着けます。これは、一体感を醸し出したり、自分の立場を表面上表すということに非常に効果があるわけですが、ただし、その持っているものの意味を理解しないとなかなか、ただ着けているだけということになってしまう可能性があります。これを着けていることによって、自分がどういう活動をするのか、どういうスタンスで仕事をするのか、そういうことを表すために着けているバッジだというふうに、私はそういうふうに考えております。多分、皆さんもその創快バッジを着けられるということであれば、そのバッジに込めた意味というものを十分理解しながら着けないと、ただ着けただけということでは意味が半減してしまうというふうに思いますので、その辺りの取組みをお聞きしたいと思います。

○木村清貴　議長　横手明峰中学校、小西彩瑞さん。

○横手明峰中学校　小西彩瑞　ただいまのご質問についてお答えします。

この件については、私たちにとってとても重要な課題だと捉えています。実際、Ｙ８サミットの中でも最初に話題になったことでした。まず、この創快バッジは、横手の中学生みんなが仲間であるということ、自分もその一員として創快な学校生活を送っていこうという意思を表す象徴であるということを再度各校の生徒に訴えていこうと思います。しかし、全ての生徒にしっかり理解してもらうことは容易なことではありません。そのために、創快を意識した生徒会活動にみんなの声を取り入れていきながら、

その活動をしっかり継続させていくことが大切だと考えています。

今年度の各校の生徒会活動の中でも、生徒のみんなに理解してもらうために、創快な学校生活に関連した取組みを行ってきました。例えば、横手明峰中では、校内であいさつを強調して行う場所に「創快あいさつエリア」と名称を設定し、キーワードとなる創快を生徒に意識してもらえるように努めてきました。一つ一つは小さな取組みですが、今後も横手市の全中学生が着けている創快バッジと創快を意識した生徒会活動をしっかりとリンクさせていきながら、理解を深めてもらえるように継続して取り組んでいきたいと思います。

以上で答弁を終わります。

○木村清貴　議長　８番寿松木孝議員。

○８番（寿松木孝議員）　最後となりますが、答弁本当にありがとうございました。そして、今日この創快宣言の議案を提案していただいてからずっと流れを見ていまして、本当に感心しました。皆さんのようなリーダーがいて、各校を引っ張っていってくれるということは、非常に横手市としてもありがたいことだなというふうに思っております。我々議会という形の中で、市民を代表した形で仕事をさせてもらっている者として本当に見習うべき点が非常に多かったなというふうに感じた次第であります。私も皆さんに負けないように、これからも一つずつ邁進していきたいというふうに思いますので、ぜひですね、皆さんも今日のこの会議、そして、これに関わるための準備から、そして、今日会議終えた後の達成感、全てを大人になっても持ち続けていただきたい。そして、これからの皆さんの長い人生の糧にしていただきたい、このように願いまして終わりたいというふうに思います。ありがとうございました。

○木村清貴　議長　以上で質疑を終了いたします。

ただいまから討論を行います。討論ありませんか。

７番土田百合子議員。

【７番（土田百合子議員）登壇】

○７番（土田百合子議員）　皆様こんにちは。土田百合子でございます。今回提案されました横手市中学校創快宣言案について、賛成の立場で討論をさせていただきます。

これまで市議会においても、市内の小中学校の子どもたちが安心して勉学に励める環境を推進するために、様々な議論が行われてまいりました。全国においては、不登校やいじめなど心が痛む問題は後を絶たず、大きな社会問題となっております。

その中において、横手市内の中学校生徒のリーダーたちが一堂に会し、いじめゼロＹ８サミットを市議会において開催することは大変意義のあることと思います。横手市内の８つの中学校でこれまで取り組んできたあいさつ運動やほっとポストの設置、創快バッジの作成など、Ｙ８サミットで紹介し、交流を図りながら今議会に宣言案が提出されたものと理解することができました。生徒会が積極的に快適な学校生活を送るために創快宣言案を推進することは、地域全体にも良い影響を与えますし、このことを先生たちがサポートすることにより、生徒の主体性がより一層確

保されるものと考えます。ぜひ一丸となって、勇気を持って頑張っていただきたいと思います。

人生百年という時代になりました。創快宣言案は、必ずや皆さんの人生にとっても大事な柱となって生かされていくものと確信いたします。今後もＹ８サミットで交流を深め合いながら、いじめ防止の学校文化をぜひ実現していただきたいことをお願い申し上げまして賛成討論といたします。

以上であります。

○木村清貴　議長　ほかに討論ありませんか。

３番立身万千子議員。

【３番（立身万千子議員）登壇】

○３番（立身万千子議員）　日本共産党の立身万千子です。私は、横手市中学校創快宣言案に賛成の立場で討論します。

まず、提案者である生徒の皆さんが、横手に住む中学生全員の「安心して過ごせる創快な学校生活を送りたい」という真剣な願いを横手市の大人たちに発信してくれた、その勇気と良識に深い敬意と感謝を表します。

私もそうでしたが、皆さんの親御さんたちは、あなた方が生まれる前から、お腹の中に向かって毎日毎日朝晩のあいさつをしたり、優しく話しかけては穏やかな気持ちになり、誕生すると自分たちの子どもや孫として生まれてきてくれてありがとうと、本当にいとおしい気持ちでいっぱいになったことだと思います。日々の暮らしが豊かに彩られて、皆さんとともにこの十数年を生きてこられたと思います。

けれども、毎日の生活は決して順風万帆ではありません。大人たちの生き方が皆さんに鏡のように映ります。大人たちへの反発も数多く出てくることでしょう。とりわけ、昨今の社会経済情勢は、横手の将来、日本の将来を担う皆さんの前にハードルがいくつも立ちはだかっていると言わざるを得ません。

そんな中では、つい感謝の気持ちを忘れ、やっかみや落ち込みで友達を傷つけてしまうこともあるかもしれません。各議員の質問にもあったように、感謝や思いやりの気持ちは自分から湧き出てくるものです。人に言われて思うものでもなければ、「you must be」「we have to do」といった言葉や「ねばならない」といった理性で自分の心を縛るものでもないと私は思います。ただ、気づかせてもらうことはできます。

「人は人でしか磨かれない」という格言を皆さんも時折耳にされるのではないでしょうか。対立したり向かい合ったりするのではなくて、横並びで励まし合って学び、遊び、会話をすることで相手の立場や気持ちを理解することができてきますし、ＩＱとは違うＥＱ、すなわち共感する能力が育つと言われます。

現実には、皆さんの議案提案理由にあるとおり、いま部活動やスマートフォンなどのラインでのいじめがもとになって、自らの命を絶ってしまったり、家の中に引きこもり、学校に足を運べない子どもたちが日本中で苦しんでいます。折角この世に生まれてきてくれた皆さんが、祝福されて大人への道を歩

むことができるように私たちは応援します。おかしい、変だと思うことをきちんと表明できるように環境を整えるのは大人の責任です。私たち大人は、できうる限り国連の子どもの権利条約、そして、横手市の子どもの権利宣言がしっかりと活かされるように頑張ります。困った時にはＳＯＳを発信できるように、あらゆる方法を考えて出し合い、工夫していきましょう。それが認め合いになり、人と人とのつながりになっていくと思います。

生徒の皆さん同士の豊かな触れ合いと地域の人々の見守り、そして、親御さんや先生方の温かい導きの中から、この宣言を日常生活に根付いたものにできるよう心から願って宣言案を採択することに賛成します。

○木村清貴　議長　ほかに討論ありませんか。

【「なし」と呼ぶ者あり】

○木村清貴　議長　討論なしと認めます。

ただいまから、議案第１号横手市中学校創快宣言についてを起立により採決いたします。

本案に賛成の議員の起立を求めます。

【賛成者起立】

○木村清貴　議長　起立全員であります。したがって、議案第１号は原案のとおり可決されました。

◎閉会の宣告

○木村清貴　議長　これで平成26年Ｙ８サミット創快横手市議会を閉会いたします。

大変ご苦労さまでした。

午後３時０３分　閉会

地方自治法第１２３条第２項の規定により、ここに署名するものである。

横手市議会議長　　木　　村　　清　　貴

横手市議会議員　　佐　　藤　　徳　　雄

横手市議会議員　　佐　　藤　　忠　　久